

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 801 事業名 旧中筋家住宅公開事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		社会教育費	
	目		文化財保護費	
	大事業		文化財保護事業	
事項		旧中筋家住宅公開事業		

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	1	文化遺産の保護・継承
取組	2	文化遺産の公開と活用

事業種別	新規	主な事務事業	○
事業期間		～	
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	文化振興課	富松 真矢子 (435-1194)	
関連課			

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実		
その他	○	その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	国指定文化財旧中筋家住宅の維持管理及び運営を行う。	旧中筋家住宅の維持管理及び運営				
実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
			観覧者数 平成22年度観覧者総数 4,724人	観覧者数 3,065人	観覧者数 3,000人	観覧者数 3,000人

2 事業コスト

事業費 千円		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
	事業費			10,333	10,058	6,558	6,320	5,645			
	伸び率 (%)	-	-	-	-	-36.5%	-	-13.9%			-100.0%
	人件費	常勤職員			3,512	3,512	1,366	1,366			
		非常勤職員			2,643	6,823	6,823	6,848	6,848		
		小計			2,643	10,335	10,335	8,214	8,214		
	国庫支出金										
	県支出金										
	市債										
	その他			333	1,147	1,359	585	552			
	一般財源 (税等)			10,000	8,911	5,199	5,735	5,093			
所要人数	常勤職員			0.46	0.46	0.18	0.18				
	非常勤職員			2.89	2.89	1.86	1.86				

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況					平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	開場日数					年度目標値	73	90	86	
						実績値	73	118		
	単位	日	全体目標値	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	100.0%	131.1%		
	自主事業開催数					年度目標値	5	6	7	
						実績値	5	7		
単位	回	全体目標値	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	100.0%	116.0%			
成果指標	事業進捗率 (旧中筋家保存修理事業)					年度目標値	100	100		
						実績値	100	100		
	単位	%	全体目標値	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	100.0%	100.0%		
	文化財関連施設入館者数 (旧中筋家住宅)					年度目標値	1320	3000	3000	3000
					実績値	4724	3065			
単位	人	全体目標値	3000	全体目標達成度	230.0%	年度別達成度	357.9%	102.2%		

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載)  <b>A</b>
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	平成22年度の公開から1年余りではあるが、多種多様な自主事業を行うことによって、リピーターの増加による観覧者の定着化をはかれているため。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	